

提 言 書

～大牟田「まちなか再生」未来ビジョンについて～

令和6年4月19日

大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォーム

(座長 出口 敦)

提言書

～大牟田「まちなか再生」未来ビジョンについて～

かつての大牟田市のまちなかは、商店や百貨店が集積し、また鉄道やバスなど多様な交通手段に支えられた地域として、周辺市町から多くの人を訪れる地域経済の中心として機能していました。しかし現在では、人口減少に加えモータリゼーションの進展等により居住や消費が郊外化した結果、まちなかの居住者や来街者が減少し、空き家・空地・空き店舗等の低未利用地が発生する「都市のスポンジ化」が進行して、まちなかの活力が低下しています。

その一方で、現在のまちなかは、福岡や熊本の都市圏を結ぶ JR や西日本鉄道の駅(乗降客数1万人以上/日)が存在するほか、市役所や郵便局など行政機関をはじめ、イノベーション創出拠点「aurea」、市民活動等多目的交流施設「えるる」、大型商業施設など、多様な都市機能・インフラが集積した市内で大きなポテンシャルを有し、発展の可能性を秘めたエリアです。また周辺には、全国初となる「絵本美術館」を有する大牟田市動物園(来園者数 20万人以上/年)をはじめ、新総合体育館「おおむたアリーナ」整備など延命公園全体の賑わい交流拠点化が進む「延命公園周辺地区」、帝京大学をはじめ、広域から多くの集客がある諏訪公園や大型商業施設を有し、新たに大規模な宿泊施設が進出する「岬町地区」があり、まちなかとの連携が期待されています。

まちなか再生のためには、これらのポテンシャルを生かしながら、ハード・ソフト両面での取組みを行い、大牟田に関わる人や愛着を持つ人を増やし、まちづくりに関わることができる場の提供や、まちづくりと人とのマッチングを行い、多くの人をまちづくりに巻き込むことが重要です。そして、まちなかを再生することによって、「まちの価値」が高まり、郊外へ波及して「まち全体の魅力や価値」を上げていくことに繋げる必要があります。

今回、大牟田まちなか再生推進エリアプラットフォームで策定した「大牟田「まちなか再生」未来ビジョン」は、今後20年を目標としたまちなかの魅力創出及び活力の維持向上のため、公・民・学で共有するエリアの将来像とその実現のための取組指針を定めたものです。

この未来ビジョンを契機として、公・民・学が連携し、大牟田らしい「まちなか再生」に取組み、目指す姿の「3つの Wa(環・輪・和)」を実現させ、魅力ある未来が創造されることを期待します。